

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	安全で安心な都市基盤の整備計画											
計画の期間	平成29年度 ~ 令和02年度 (4年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	長野県, 長野市											
計画の目標	狭隘な道路や踏切を解消し、事業区間周辺の安全な交通環境を整備する。											
全体事業費 (百万円)	合計 (A + B + C + D)	7,210	A	7,170	B	40	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A + B + C + D)	0 %

番号	計画の成果目標 (定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27年度)	中間目標値 (H31末)	最終目標値 (R2末)
1	・事業区間周辺の事故件数の減少。 ・事業区間周辺の事故件数の減少 (対象年度事故発生件数) / (H27事故発生件数)	100%	100%	80%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
・長野県強靱化計画に基づき実施される要素事業：8 - A1 ~ 8 - A31全て												

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H29	H30	H31	R02	R03				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
道路事業	A01-001	街路	一般	長野県	直接	長野県	S街路	改築	高田若槻線	バイパスL=0.9 k m	長野市						3,113	2.3	-	
	A01-002	街路	一般	長野市	直接	長野市	S街路	改築	北部幹線	バイパスL=1.2 k m	長野市						2,057	1.2	-	
	A01-003	街路	一般	長野県	直接	長野県	S街路	改築	環状北線(山寺~中央工区)	道路拡幅L=0.4 k m	伊那市						2,000	2.7	-	
												小計						7,170		
												合計						7,170		

B 関連社会資本整備事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H29	H30	H31	R02	R03				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
道路事業	B01-001	街路	一般	長野県	直接	長野県	S街路	新設	信号機整備事業	信号機設置N=10基	長野市						40	-	-	
		歩行者、通行車両の一層の安全効果																		
											小計						40			
											合計						40			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
「長野県建設部社会資本総合整備計画評価実施要領」に基づき実施する。	整備計画の交付期限の最終年度に予定しているすべての要素事業が完了した後、速やかに実施する。 (翌年度へ繰り越す要素事業がある場合は、当該事業が完了した後、実施する。)
	公表の方法
	長野県公式ホームページにおいて公表する。
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・高田若槻線他1路線の整備が完了した結果、バイパス整備による現道通過交通が排除され、交通事故の減少に寄与した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況(必要に応じて記述)	・高田若槻線他1路線の整備に伴い、通学路の歩道整備が促進され、安全な歩行者空間の確保が図られたと評価できる。 ・高田若槻線他1路線の整備に伴い、バイパス整備による移動時間短縮や踏切の解消による渋滞緩和に寄与したと評価できる。
特記事項(今後の方針等)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地における狭隘道路や踏切等の解消により、円滑な交通及び安全な歩行者空間が確保され、安全で安心な都市基盤の整備が図られたと評価できる。</li> <li>・今後は、引き続き、市街地における緊急輸送路や主要幹線道路の整備を優先的に進め、歩道未整備区間や慢性的な渋滞発生区間の解消を図り、快適で安心な都市交通の創出を推進していく。</li> </ul>	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	事業区間周辺の事故件数の減少（（対象年度事故発生件数） / （H27事故発生件数））		
	最終 目標値	80%	幹線道路の整備により、市街地の狭隘道路における通過交通が排除され、事故発生件数が減少したため、目標値を上回った。
	最終 実績値	77%	